

# 晴耕雨読

# 48

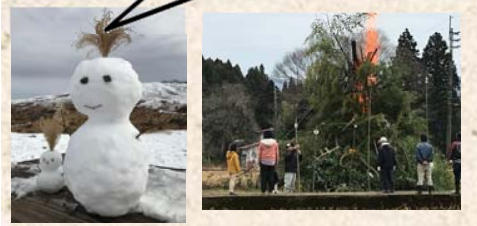
発行:株式会社 建設プロジェクトセンター  
 建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量業・地質業登録  
 〒869-1234  
 熊本県菊池郡大津町引水215-1(技術研究所)  
 本社:熊本市/八代支店/合志営業所  
 TEL:096-293-4400/FAX:096-293-4885  
 E-mail:kenpro@muc.biglobe.ne.jp

Vol 48 Nov 2018 seikoudoku



初日が昇る時、黒い山の頂から眩しい黄金色を中心に輪状に大きく広がる明るい1年の始まり。大津町引水の農道からみた平成30年元旦の朝日スケッチ。 H/N

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお喜びを申し上げます



## 阿蘇山上の在来トンネル ■左義長(さぎっちょ)とは…?



今年の見通しOK!!  
 阿蘇山上のトンネルを抜けると、そこは雪国だった(笑)

1月7日の朝、阿蘇山に雪を見に行く途中、南阿蘇村付近で見かけたのが上の写真の「どんごや」地元の方に昔はどんごやを何と言っていたかと尋ねると、「左義長」と言っていたそう。この言葉は平安時代の文書に「三毬打」「三毬杖」として見られ、3本の竹や棒を結わえて三脚に立てた事に由来するとされている。上のスケッチは南阿蘇村朽木地区の左義長です。

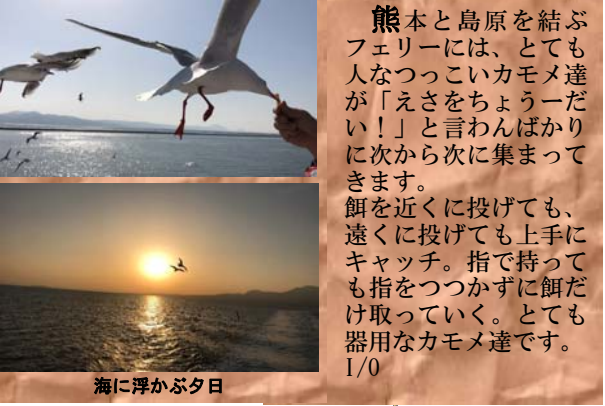


方言だと思っ  
 ていたら  
 みやびな  
 言葉で  
 した...



## 私たちがおすすめスポット

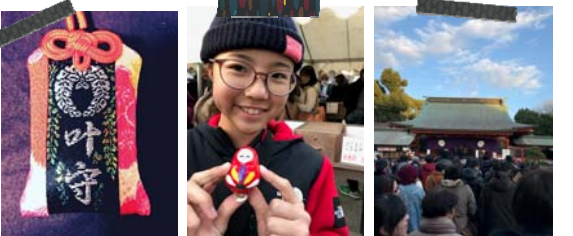
### 器用なカモメとふれあう正月(^\_^)v



海に浮かぶ夕日

熊本と島原を結ぶフェリーには、とても人なつっこいカモメ達が「えさをちょうだい!」と言わんばかりに次から次に集まってくる。餌を近くに投げて、遠くに投げて上手にキャッチ。指で持っても指をつつかずに餌だけ取っていく。とても器用なカモメ達です。 I/O

### だるまみくじに願を託す



年初めに藤崎宮へ参拝へ…。おみくじで今年最初の運試し!という事で、長女は「だるまみくじ」と言うおみくじを。次女と三女は、叶えたい事を書いてお守りの中に入れる叶守と言われるお守りを購入していました。私も2018年の決意を叶守りに忍ばせました(笑) T/B



にんにく味噌調理部隊

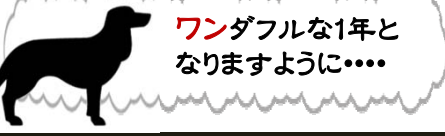


昨年の締めくくりに恒例の「餅つき」を開催。総勢25名程が集まりました。今年は世代交代の年!と言われ、初のかえしに挑戦…。見るのとやってみるのは、大違い(笑)日本の伝統行事。途絶えさせてはいけないなあ〜と改めて感じました。 T/B



### 「Japanese Sunrise」

御来光をありがたがるのは日本人独特の文化だそうです。「Japanese Sunrise」今年も、あきらめかけたほんの一瞬(数分間)の御来光でしたが、何か神々しい気がします。 T/B



ワンダフルな1年と  
 なりますように…

## 身近な環境への思い

### Human Architectur

迎春は気持ちで迎える  
 本年の我が家の庭飾りは松竹梅ではなく、3色のシクラメンの寄せ植えをしました。三が日は温かく玄関先もカラフルに華やかでしたが、突如白花だけがうな垂れてしまいました。ガーデンシクラメンは寒さに強いはずが、この白花はその種ではなかったらしい。温度に敏感に反応したようで環境変化の影響を身近に感じた次第である。部屋に入れたらなんとか復活しました。人間も人の痛みかゆみは他人には判りませんが、人は口で伝えることができます。本年も健やかでありますようご祈念申し上げます。右写真は会社入口に毎年掲げている門松です。 A/T



ガーデンシクラメン 会社の門松

### 下鶴橋の装飾



上記のスケッチは、御船町の指定文化財「下鶴橋」の高欄・地覆・壁石の断面図です。一番上の丸い球を手で支えている様な形がこの橋の特徴です。橋本勘五郎が江戸から帰ってきて作った橋で、装飾に手を加えた素晴らしい高欄です。 H/N

### 海の花園知ってますか?



パッチワーク模様の光景

皆さん2月6日は「海苔の日」と知っていましたか?有明海は潮汐の干満が大きく豊かな海であるため、古くから海苔の養殖が盛んに営まれています。今期も寒さ厳しくなり水温低下や強風による波浪の影響で適度な海の攪拌もあり海苔の生育環境に良い状況が続いています。12月1日の一番ノリの初入礼会では熊本の海苔は味・色・艶と、やわらかく舌触りが良いと全国で一番高い評価を得ています。今後も益々「質・量」ともに収穫に期待が持てそうです。ところで身近な海苔養殖においても皆さんは「海の花園」が見れる事知っていますか?10月中旬に網入れし、海苔が発育するまでの僅か1週間程は小高い山に登って海面を見渡せば赤・橙・紫・青・緑・白など、色とりどりのモザイクが花模様に見えて、広大な沖合に向かって網入れする様はまるでパッチワークのような光景です。 B/I

### 我が家の「仁平梅」

一年ほど前、山鹿の洞橋(とうぐうばし)を見に行きました。フットパスパンフレットが言うには、「石工仁平が架けた県内最古の石橋、アーチ輪石が1列で長いのが特徴」帰りに、近くのおんずの丘に寄って枝垂れ梅を購入し、仁平梅と名づけました。今年も蕾が膨らんでいます。 M/T (仁平とは菊鹿町出身の石工です)



### 5年ぶりの断捨離!!

新しいモノを断つ  
 不要なモノを捨てる  
 モノへの執着から離れる



地震で半壊した社屋の補修工事が今年の夏から始まり、工事に伴い社内の片づけを行いました。年末に工事も終わり、そのままの勢いで、しばらく手をつけていなかった、自分の部屋の断捨離(だんしゃり)を行いました。5年ぶりにスッキリ!良い正月を迎えることができました。 K/I

## 身近な土木文化への思い

### Civil Engineering

### 国指定重要文化財熊本城区域内にある石橋、石垣の復旧

今回は熊本地震で被災した国指定重要文化財熊本城区域内にある①石橋と②石垣の地震災害復旧についてお話しします。対象の①②は国指定重要文化財熊本城内の施設です。①②共に、県立第一高校正門前石橋で平成28年4月の熊本地震で高欄や壁石が被災し、昨年7月から工事を開始し、同年12月に完成。同様に生徒や来校者から早い復旧が寄せられていました。肥後国誌によれば、明応5(1496)年に鹿子木親員(寂心)が築き、城親冬が入城したとされ、石垣を含め古く文化的価値の高い場所に当たります。工事段階では、学校関係者との合同会議等を開催し、地震発生から約1年9ヶ月で復旧できました。特に石垣工事では、崩壊石垣の修復段階で熊本県・市の文化課の立会いや立面図を作成しながら工事監理に携わりました。 K/N



石垣被災直後写真



完成写真

### 高橋稲荷神社に参拝



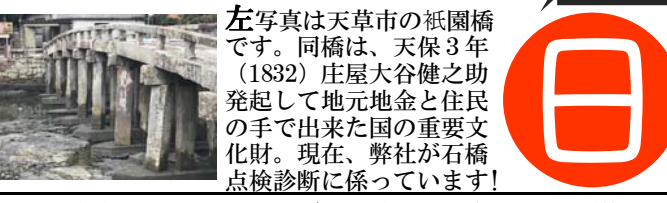
初詣は熊本市西区にある高橋稲荷神社に参拝しました。多くの人で賑わうこの神社は、2年前の地震や大雨による土砂崩れで、社務所倒壊、本殿周辺の土砂埋め、鳥居のひび割れ等の大きな被害を受けました。現在は復旧が進み、境内の大鳥居は再建され、奥の宮へ続く参道や崩れた斜面も法枠工で整備され西区が一望できる高台となりました。復旧にご助力、ご尽力された方々に、襟を正す思いでした。2月の初午には、福餅まきで盛り上がる初午大祭が行われます。良い福がみなさんに舞い降りますように願います。 K/S

### 冬の滝室坂峠の話題

国道57号滝室坂道路は、地域高規格道路「中九州横断道路」の一部を形成し、災害発生時の代替道路確保、走行性の向上等を目的とした事業。「滝室坂」は、肥後熊本藩初代藩主・加藤清正公が軍事と交通の重要ルートとして整備し、細川氏が参勤交代で利用した「豊後街道」の最大の難所であった。わが社は、滝室坂道路の西側出入口である坂梨地区における地質調査を行う機会を得ました。下の写真は、計画図とボーリング中の状況です。この付近の地形は、根子岳からの土石流やカルデラ壁の崩壊により形成されているようで、非常に複雑な地質構造です。卵の鼻の先端にある日本山妙法寺の住職の話では、平成2年と平成24年の豪雨ではお寺の前の田んぼは、一面湖になったとのことでした。平成2年の災害は、根子岳・高岳の山腹崩壊による土石流によるものであったが、直径100mもある竹林が一塊で流されてきたとのこと。 N/S



卵の鼻の先端 トンネル部 完成写真 ボーリング地点 滝室坂-豊後街道最大の難所 祇園橋



左写真は天草市の祇園橋です。同橋は、天保3年(1832)庄屋大谷健之助発起して地元地金と住民の手で出来た国の重要文化財。現在、弊社が石橋点検診断に係っています!



■後記: 熊本地震から復興に向かって少しずつ足跡が見え始めました。復興の過程をスケッチや写真で伝える機会にもなりました。水源が枯れた南阿蘇村の塩井社水源など暮らしや風景が変わった地域もあり、その現実を伝えるべきことが沢山あります。今後も皆さんへ地域復興を中心に紹介してまいります。この晴耕雨読は職員の協力で発行しています。